

あかるく かしこく たくましく

令和6年6月26日 No. 13 文責：校長 佐野紳二

「性格」を分類する

私の職場に、ほんとに細かい人がいるんだよ。あの人は絶対A型だよ。
あの人、末っ子っていう感じだよ。お調子者で甘えん坊なもの。
彼は昔のことをいつまでもネチネチ言うよね。ああいうのを粘着気質っていうんだよ。

私たちは誰かの性格を表現するときに、何らかの基準を設けて話をすることが多くあります。今日はこの「性格の分類」について話をしてみようと思います。

類型論と特性論

性格の分類法には大きく分けて**類型論**と**特性論**という2つの考え方があります。類型論は性格をいくつかの基準によって類型に分ける方法で、特性論は人間の性格をいくつかの特性の集まりだと考えて分ける方法です。冒頭の3つの話はいずれも類型論の考え方で、最も有名な類型論は、血液型による性格の分類*かと思われれます。



*血液型による性格の分類は、現代心理学では「世間で思われているような血液型と性格との関連は支持できない」と結論付けられています。(3,000人以上を対象としたアンケートを4回以上実施しても、血液型による特定の性格の偏りは見られなかったそうです)
でも、血液型と性格についての話題は、特に初めてあった人との会話の糸口になりやすく、他者との関係を親密にする効果があることも一方では認められているそうです。

性格を分類するという考えは、古くは2世紀のギリシャ時代にまで遡ることができます。古代ギリシャの医学者・**ガレノス**は人間の体内に「血液・胆汁・黒胆汁・粘液」という4種類の体液があり、その中のどれが体の中で優勢に働いているかによって性格が異なると考えていました。

体形による性格の分類

ドイツの精神医学者**クレッチマー**は、人の体型と性格にはある一定の関係があると考え、体型によって人の性格を分類しました。

肥満型（躁うつ気質）…社交的で明るく、楽しい性格だが、気分バラつきがある。
やせ型（分裂気質）…神経質で控えめ。周囲と関わるよりは自分の世界で過ごすことを好む。
筋肉質型（粘着気質）…正義感が強く、頑固で自分の考えを押し通そうとする。礼儀正しく几帳面。

アメリカの心理学者**ウィリアム・シェルドン**は胎生期（赤ちゃんがお母さんのおなかにいる初期の段階）の肺葉の分化によって人の体格・体型が決定されると考え、内胚葉、中胚葉、外胚葉の3つの胚葉から発達した部位の特徴をそれぞれ「内蔵型(内胚葉型)」「身体型(中胚葉型)」「頭脳型(外胚葉型)」と呼び、性格を3つのタイプに分類しました。

内蔵（内胚葉）型…消火器や呼吸器系が発達し、丸みを帯びた体型。社交的、感受性豊か、温厚。
身体（中胚葉）型…骨や筋肉などが発達し、どっしりした体型。積極的、大胆、自信家。
頭脳（外胚葉）型…神経や表皮などが発達し、細長い体型。内向的、知的で繊細。疲れやすい。

一方、ドイツの心理学者**エドゥアルト・シュプリング**は、人間が生活を送る中でどの領域に最も価値を置いているかによって、性格（その人のもつ価値観）を6つに分類しました。

理論志向型…論理性を重んじる、心理の追求が好きな人。
経済志向型…経済的な損得を重んじる、お金が好きな人。
審美志向型…美しいものを重んじる、感性に生きる人。
権力志向型…社会的な勝ち負けを重んじる、権力に生きる人。
宗教志向型…宗教的な道徳を重んじる、精神世界が好きな人。
社会志向型…協調性を重んじる、仲間や愛情に生きる人。



ユングの類型論

スイスの心理学者**カール・グスタフ・ユング**は、人間が持っているエネルギーが外界の物事や人に向かう外向型の人と、心の世界に向かう内向的の人に分け、この2つをさらに思考型、感情型、感覚型、直観型という人間の心が持つ力（心理機能）ごとに組み合わせ、8つの類型に分類しました。

外交的思考タイプ…何事も客観的事実に即して考える。他人には不寛容。
内向的思考タイプ…事実よりも主観を重視する。頑固で強情。哲学者肌。
外交的感情タイプ…流行が好きで、深い思考性はない。対人関係が豊か。
内向的感情タイプ…感受性が強く、自己の内面を充実させたいと願う。
外交的感覚タイプ…現実を受け入れる力がある。快感を楽しみ、享乐的。
内向的感覚タイプ…物事の奥にあるものを感じ取れる。独自の表現力。
外交的直観タイプ…実業家に多いひらめき型。可能性を追求する。
内向的直観タイプ…非現実的にひらめきによって行動する。芸術家に多い。



C・G・ユング

ビッグ・ファイブ理論（性格5特性論）

これまでに説明してきた類型論に対し、性格を特性の集まりだと考えた類型論の中で1990年代頃から広まったのが、性格や人格を統計分析によって5つの基本的な特性因子で表した**ビッグ・ファイブ理論**です。特性論の多くが、特性が細分化されすぎて、人間の性格の全体像をとらえることができませんでしたが、このビッグ・ファイブ理論では、人間には民族の違いを超えて普遍的な5つの共通する特性があるとしました。

外向性 …人付き合いがよいか悪いか。この傾向が高いと社交的な性格。
協調性 …他人に合わせた行動ができるか。この傾向が高いと協調性がある性格。
誠実性 …物事に対して誠実に取り組む姿勢があるか、ないか。この傾向が高いと勤勉な性格。
神経症傾向…細かいことを気にするか、しないか。この傾向が高いと情緒不安定な性格。
開放性 …さまざまな物事に興味を持ち、それを受け入れるかどうか。この傾向が高いと好奇心旺盛な性格。

こうしたさまざまな方法で性格を分類するのは、それによって「あなたの思考にはこんな傾向があるよ」「だからこんなふうに物事をとらえたり行動したりするようにしてみるといいよ」と、医師や学者が相談者に対して説明をするためだと思われます。こうした分類をするためには、多くの被験者から大量のデータを入手し、統計学的手法で分析しています。これがいわゆる「心理学」で、みなさんが持っているイメージとはちょっと違うのかもしれませんが。（この話題はさらに次号に続きます）

今日の参考文献

職場で使える心理学 <https://memosinri.hatenablog.com/entry/1852.html>
ビジネスのためのWeb活用術。 <https://swingroot.com/spranger-values-type/>
ITカウンセリングLab <https://it-counselor.net/psychology-terms/jung-type-theory>